

広報伊達 146

発行日 令和5年12月18日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 遠藤和宏

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》

地域から愛され、地域を愛する子ども



伊達地区小学校長会副会長

佐藤 政 俊

(国見町立国見小学校長)

地域ぐるみで子どもを育み、地域への誇りと郷土愛を育てることにより、それがやがて自信となり、大人になって活躍するための土台になると考えています。国見町では地域とともにある学校づくりを目指し、保育所、幼稚園、小学校、中学校を一つの集合体とみなした国見学園コミュニティ・スクールが基盤となり、国見町地域学校協働本部事業が行われています。本校での地域連携の様子の一部を紹介させていただきます。

たくさんの学校支援ボランティア

学年ごとに主なものを紹介します。

○第1学年：書写「じをかこう」

習字教室の先生と生徒さんに、鉛筆の正しい持ち方の個別支援を行っていただいています。

○第2学年：生活科「野菜を育てよう」

地元の農家さんが学校農園の耕運作業とサツマイモの苗植えの指導をしてくださいました。秋には一緒に収穫作業を行いました。

○第3学年：社会科「国見町のすてきを広めよう」

桃農家さんのご協力で6月に桃の摘果作業、8月に桃の収穫をさせていただいています。桃畑で桃の種類や栽培方法等も教えていただきました。

○第4学年：総合的な学習「郷土料理を調べよう」

コロナ感染症のため3年間できませんでした。国見町更生保護女性会のご厚意で笹巻き作りが復活しました。会員の方々の支援でもち米を笹に包んで紐で結びました。

○第5学年：総合的な学習「やってみよう！国見でできる生産活動」

たいへん多くの団体のご協力を得て、5月に田植え、9月に稲刈りを体験しています。国見町

の主産業の農業について学ぶ機会となっています。11月には親子行事でしめ縄作りも行いました。

○第6学年：総合的な学習「国見町歴史探検隊」

国見町内にある史跡や歴史館を、学校支援ボランティアの方々と一緒に巡り、丁寧な説明をいただきました。中には福島県立博物館に展示されている史跡もあり、町への誇りと郷土愛が育まれます。

これらの活動は町の学校支援コーディネーターと本校の体験ボランティアコーディネーターが協力し、担当学年とボランティアとの打合せにより、ねらいの共有をしながら進めています。

地域の一員として「人の役に立つ」人間を育てる

協力していただくだけでなく、自分たちも国見町の一員であるという自覚を育て、町のために役立つ活動をさせています。新しい活動をするわけではなく、今まで行ってきたもののねらいを再検討して児童に働きかけました。

例えば、町の交通安全標語コンクールでは、標語づくりを通して町民の安全を願う心を育てます。町商工会からの依頼の「七夕の短冊作り」では、自分の夢や希望を町中に飾ってもらい、町を明るく元気にします。歳の暮れには町社会福祉協議会の依頼で一人暮らしのご老人に葉書を書き、よい正月を迎えてもらいます。町教育委員会が初めて行った夏休みのごみ拾い活動には、多くの児童が参加し、町をきれいにしました。

地域ぐるみでの教育が国見町の大きな特長であり誇りです。それは当たり前ではなく、素晴らしいことなのだと思われたいと児童や保護者に伝えています。

《 特 別 寄 稿 》

『県小教研体育科研究部会伊達大会（第2年次）を終えて』

伊達地区小教研体育部長 五十嵐 洋 之
(桑折町立半田醸芳小学校長)

大空高く澄み渡る10月13日(金)、伊達市立保原小学校において県内各地区の研究部長・代表者及び伊達地区体育部会員、地区小教研事務局等、計75名の参加のもと、県小教研体育科研究部会伊達大会(第2年次)を開催しました。改めて、会場校を引き受けてくださり、様々なご配慮をしてくださった保原小学校佐々木校長先生、授業を提供してくださった赤井先生はじめ、職員の皆様に心より御礼を申し上げます。また、開催にあたり、準備・運営等において適宜ご助言をいただいた伊達地区小教研会長様、地区小教研事務局長様にも深く感謝いたします。

第2年次大会では、県研究主題である「体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成」を受け、昨年度課題としてあげられた「ICTの効果的な活用」に焦点を当て、研究協議・授業公開を実施しました。現在、どの教科でも積極的な活用が図られているタブレット等のICT機器ですが、体育科においてもその効果は十分に理解されているものの、「運動量の確保」や「動きの質の向上」のための効果的な活用の仕方には課題が残るのが現状です。

研究協議Ⅰでは、各地区の代表者から地区における「ICTの効果的な活用実践例」の報告がありました。効果として「目指すべき姿の明確な可視化」「自己の動きの客観的分析」「評価への活用」等が報告され、参加者は日々の自らの授業と照らし合わせながら報告を聞くことができました。

報告後のグループ協議では、「運動量を確保するための効果



【研究協議Ⅰ】

的な活用」について熱心な話し合いが行われました。時間を忘れて熱く議論する姿に、体育部会員の課題意識の高さや知識や技術を学び取ろうとす

る主体的な姿勢の素晴らしさを感じるとともに、大会の成功を確信しました。また、小教研の果たす役割の大きさを再確認することもできました。

午後の第5学年「器械運動(マット運動)」の授業では、子ども達が本時の課題を明確にし、グループの友達と教え合い学び合いながら動きを高める姿がいろいろな場面で見られました。また、タブレット



【授業公開】

の活用を目的とするのではなく、「自分の考えを伝えるため」及び「自分の動きが課題にせまれているかどうかを判断する」手段として活用が図られていました。今後の授業づくりに大いに参考となる素晴らしい授業でした。

その後の協議でも、「視点を明確にしたタブレットの活用」「温かな人間関係を土台とした学び合い活動」について話し合わせ、今後の実践に向けて実りある協議となりました。

全体指導では、福島県教育庁健



【グループ協議】

康教育課指導主事田村高弘様より、「ICTの効果的な活用」「主体的・対話的で深い学びのある体育科の授業づくり」について、豊富な資料及び自らの経験を踏まえた指導をいただき、会員にとって今後の授業づくりに向けて明確な指針を得ることができました。

改めて、大会開催にご尽力いただいた伊達地区の校長先生方をはじめ、体育部員の先生方、また、関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。本年度の成果と課題をしっかりと検証し、まとめの第3年次に向けて準備を進めて参ります。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

《 特 別 寄 稿 》

第63回東北連合小学校長会研究協議会山形大会を振り返って

第5分科会【健やかな体】

伊達市立柱沢小学校長 小 野 忠 大

第5分科会【健やかな体】では、研究課題「未来に夢を描き生きる力を育てる健康教育・環境教育」を受け、山形県の谷地南部小学校及び福島県の高田小学校の2つの発表に続き、2つの視点を設けグループ協議を行いました。

視点1「心身の健やかな成長を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善（健康教育）」については、自己マネジメント力を育てる具体的な取組が話題となりました。まずは福島県の自分手帳の取組が紹介され、その後、各県で同様の取組の実践例が紹介されました。取組への温度差や振り返りの確保、次学年への引き継ぎなど課題が見られるものの、先生方の意識を変えるには校長のリーダーシップが大切であり、そのことによって必ず子どもが変わるといった意見が出されました。家庭や専門家との連携や情報発信、実践のリーダーを育てるといったことの大切さも確認しました。

視点2「体験を通して実践的な態度を育む教育

課程の編成・実施・評価・改善（環境教育）」については、学校ならではの環境教育について意見が出されました。目の前に大きな環境問題がなくても、これまでの活動のとらえ直しが必要であること、子どもに気づかせることの大切さ、地域や専門家との連携、意識の持たせ方が大切であることなどを確認しました。また、アウトプットしていくことの大切さや、カリキュラムへの位置づけなどについても意見が交わされました。校長としての働きかけが重要で、誰に対してどのようなアプローチをしていくか、何をを目指すのかを考えさせることが必要であること、それが教職員の参画意識を高め主体的な活動につながることを確認しました。

今回のグループでの協議を通して、東北各県の特色ある取組を知ることができ、自分自身のこれからの学校経営に関するヒントを得たように感じ、とても有意義な分科会でした。

第9分科会【自立と社会性】

伊達市立上保原小学校長 伊 藤 栄

第9分科会【自立と社会性】では、研究課題「自立と社会参加を図る教育の推進」に対し、2つの研究の視点を設け、それぞれについての研究発表の後、グループ協議を行い、全体で次のような具体的方策と校長の役割についてまとめました。

視点1「自立と社会参加を図る特別支援教育の推進」では、教育的ニーズを把握し、適切な指導が行われるための専門性の向上や校内の支援体制づくりの重要性を確認しました。また、校長の役割として、保護者の理解を深めるための積極的な働きかけや、関係機関や医療機関との連携を強化していくことの必要性を確認しました。

視点2「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」では、子どもたちの体験活動の充実を図ること、そして、キャリアパスポートなどの活用により意識化を図っていくことを確認しました。また、校長として、子どもたちに必要な力を整理し、焦点化したり、地域や外部とつなぎ、連携を図

りする役割の重要性を確認しました。

グループ協議の中で、個人的に印象に残った話題は、山形県では県独自の施策として、特別支援学級の上限の人数を6名としていることや、仙台市では、特別支援教育コーディネーターの研修会を年間6回設け、受講経験者を各校に配置し支援の充実を図っていることなどで、県や地域による違いに驚きました。行政による施策の違いでもあります。声を上げ続けることの重要性についても話がうかがえ、これも校長の働きかけの一つかと思いました。また、子どもに夢や志を育む事例として、6年生と中学生のキャリア交流を図った事例や、「自分づくり教育」と称して5つの視点(5つの力)を示して、地域を挙げて取り組んでいる事例など参考になることが多々ありました。

学校や地域によって実情が様々あり、校長の明確な方針が問われる部分が大いなかで、外を知ることと自分の考えの幅が広がると実感できた2日間でした。

《 特 別 寄 稿 》

第52回福島県小学校長会研究協議会会津大会を終えて

伊達市立伊達東小学校長 笹川光威

本会第5分科会【健やかな体】において、研究主題「未来に夢を描き生きる力を育てる健康教育・環境教育と校長のあり方」の視点2「体験を通して実践的な態度を育む教育課程の編成・実践・評価改善（環境教育）」について、伊達支会としての共同実践研究を発表しました。

伊達支会の研究は、実質令和3年度よりスタートしており、各校の課題および支会地区の課題の把握から始まり、共有した共通の課題を解決する視点を基にした実践から、効果的な校長の働きかけを探り、児童の環境教育に対する実践的な態度を高めることをねらいとした研究でした。

支会発表のトピックの1つとして、支会独自に作成した「アセスメントシート」がありました。これは、校長の働きかけを具体化するために、働きかけの対象、講じる策、評価の対象・時期・方法等を7つの視点として示したツールであり、研究の幹をなした部分です。発表後の協議会においても、県担当幹事より「校長の指導性が求められる様々な取組を推進するに当たり、アセスメントシートは汎用性のあるツールであり参考となる。」との評があり、参集された先生方にも、その有用性を実感していただけたと考えます。

研究全体についての評は、以下の通りです。

- 校長のリーダーシップが、教員の環境教育に対する関心を高め、児童が主体的に身近な環境について学ぶ機会を創り出し、児童の環境保全に向けた学習活動が、児童の記憶や思いの持続につながる活動となっている。
- いつ、誰に対して、どのような関わりをしたかによって、得られた成果や課題を支会全体の

数多くの共通実践から検証し、さらに改善を加えて研究を継続している点が、研究の進め方の観点から参考となる。

- アセスメントシートを担当等と共有し、それぞれの立場において、より実感を伴いながらPDCAサイクルを機能させる意欲付けとして活用することでさらに効果が高まる。
- 各学校におけるこれまでの環境教育へのアプローチの足跡や経過を、教育課程、指導計画のみならず、外部機関のリーフレット等にも掲載してもらうことで、地域を巻き込んだ環境教育の推進につながる。その上で、児童の環境を守る実践的な態度を育んでいきたい。

本会を通して、学校における今日的な課題や自校の課題解決のために新たな取組を設定することもひとつではありますが、既存の取組や学校行事あるいは仕組みや組織を横断的な視点で再検討し組み直していくことが重要であることを再認識しました。それは、まさに校長が行うべき組織としてのカリキュラム・マネジメントなのだと思います。

終わりに、本支会の研究が、「研究のための研究」ではなく、子どもの姿から語る実践研究であり続けることを願うとともに、「伊達はひとつ」の言葉の下、子ども、教職員、学校、地域に心をはせ、課題解決のため本研究に携わられた皆様、そして、本研究の推進にあたり、折々にご指導をいただきました方々に心より感謝を申し上げ結びといたします。



編集後記

猛暑、コロナ、インフル…悩ましい対応が連続した2学期。ぎりぎりの対応を迫られる中、学校運営にあたっては、校長会としての横の連携なくしては乗り切れませんでした。つくづく伊達の校長会のよさを身にしみて感じたものでした。そして「伊達はひとつ」の思いを一段と強くしました。今後も、校長会として一致団結し予測不能な難局を乗り越えていきたいと思えます。ご多用の中、ご寄稿いただきました校長先生方に心より感謝申し上げます。ここに広報伊達146号をお届けします。